



- 市原市 - 日本の縮図

千葉県市原市は今年、市制施行50周年を迎えました。

市原市は房総半島の中央に位置し、都心から約1時間程度。北部臨海エリアには工業地帯、南部には緑豊かな里山が広がる自然と豊かな食材に恵まれた地域です。

1957年（昭和32年）から始まった市原海岸部の埋め立てと共に各企業の工場建設や操業が進み、かつての豊かな農村・漁村から工業と住宅都市へと発展してきました。日本の高度経済成長に合わせ市原市でも臨海部の工業地帯や首都圏で働く人々のベッドタウンとして数多くの郊外住宅地が広がり、人口増加が進んだ一方、近年南部エリア（以下南市原）では少子高齢化が進んでいます。

このように、日本の縮図と例えられる市原市では現在、特に南市原において、少子高齢化の進行による過疎対策と地域活性化計画が必要不可欠となっています。



臨海工業地帯



商店街



ニュータウン



里山

「市原市水と彫刻の丘」
リニューアル計画

南市原では数年前から多数の市民ギャラリーの開館や南市原ギャラリーマップの作成など「アート」をキーワードとした情報発信が、活発な市民活動の中から生まれてきました。そしてこれらの活動の中心を担ってきたのが「市原市水と彫刻の丘」です。

「市原市水と彫刻の丘」は、1995年に市の観光と文化の拠点として南市原にオープンした施設で、高滝湖畔を臨む絶好のロケーションを有します。施設の老朽化と芸術文化に対する市民活動の活発化が相まったこともあり、市原市は本施設をリノベーションすることにより、市民を始め多くの方々が芸術文化、自然環境に触れ、楽しむことができ、さらに内外に向け発信性のある施設として生まれ変わることを目指し2009年からリニューアル計画をスタートしました。

設計案及び設計者選定のためのリノベーションプロポーザルコンペティションを実施、応募総数231点の中から、伊東豊雄氏（審査委員長）、曾我部昌史氏、高橋晶子氏によって「有設計室」が最優秀賞に選ばれました。さらに愛称を一般公募し、「市原湖畔美術館 (Ichihara Lakeside Museum)」として、今年8月3日にグランドオープンを迎えます。



旧市原市水と彫刻の丘



有設計室改修案

これからの50年に向けて

人口減少が進む南市原ですが、住民有志による市民活動団体が10あり、「アート」をキーワードとした活動を始め、里山の整備や、農産物直売場の設置・運営など、観光客などの外来客を受け入れるための活動が熱心に行われています。市原市のシンボルの1つに小湊鐵道がありますが、春になると多くのお客様の目を楽しませている沿線の菜の花は、前年の秋に住民を中心にしたボランティアによる菜の花の種まきによるものです。市原市は、このような活発な市民活動と市内に眠るあらゆる資源を活用し、南市原における過疎を始め様々な諸問題を解決しながら地域活性化の動きにつなげていくための計画と準備を進めてきました。市制施行50周年と共に2013年にオープンする「市原湖畔美術館」を中核施設に、市原市は次の50年に向けて、アートと地域の多彩な魅力を掛け合わせ交じりあうまちづくりプロジェクトをスタートします。これが「中房総国際芸術祭 いちはらアート×ミックス」です。



中房総国際芸術祭

いちほらアート x ミックス

開催概要

- 会期： 2014年3月21日 [金・祝] - 5月11日 [日]
- 会場： 市原市南部 (小湊鐵道上総牛久駅～養老溪谷駅一帯)
- 連携会場： 中房総エリア
- 主催： 中房総国際芸術祭いちほらアート x ミックス実行委員会
- 後援： 経済産業省、文化庁、観光庁、千葉県
- 実行委員長： 佐久間隆義 (市原市長)
- 総合ディレクター： 北川フラム (アートディレクター)
- デザインディレクター： 色部義昭 (株式会社日本デザインセンター)
- 作品数 (予定)： 40
- 参加作家： Aigars Bikse (ラトビア)、Izhar Gafni+CardboardTechnologies (イスラエル)
姜侖秀 (韓国)、岩田草平、岩間賢、大成哲雄、瀧澤潔、とぬま、藤本壮介、
指輪ホテル、KOSUGE1-16、NPO 法人市原星空キャラバン隊
(以上日本) 他 (2013年5月現在)



廃校の活用

2013 年春、市原市に小中一貫教育校「加茂学園」が誕生し、これに伴い南市原では4つの小学校が閉校しました。地域コミュニティにおける大切なプラットフォームの役割を担ってきた学校。2014年の「いちはらアートxミックス」では、廃校を活用したアートxミックスプロジェクトにより新たなプラットフォームを創出し、学校を拠点とする文化的活動を通じたまちづくりを始めます。



月出小学校（2006年廃校）

小湊鐵道の活用

市原市のシンボル「小湊鐵道」。市のほぼ中央を走る背骨のような路線です。ただ乗るだけでもノスタルジックな旅情が味わえる鉄道ですが、「いちはらアートxミックス」では小湊鐵道の駅舎や車両を最大限に活用した、他では決して味わうことのできない“体験”を考えます。2014年は車両や駅を使ったイベントを中心に、3年後の2017年に向けては今回活用する学校と共に、駅はその名の通りプラットフォームとして地域に根付きます。



小湊鐵道里見駅ホームでのハイボールガーデン（2011年）

Around40世代
アーティスト

「いちはらアート×ミックス」の中核を担うのは、40歳前後のアーティストです。彼らが、一時的でなく継続して市原に関わり、ものづくりにとどまらないソフトづくりを、地域の方々を巻き込みながら進めていきます。そのプログラム1つ1つが、地域の重要な活動となっていくことを目指し、長期的に丁寧に実施します。



アーティスト、市民活動団体、
小学生による作品制作（2011年）

豊かな自然と食

養老溪谷を始め、南市原には山や川などの里山の風景と、そこでの暮らしが今も数多く残っています。また温暖な気候の下、野菜や果物の生鮮品から穀物、乳製品まで様々な食材が豊富にあります。「いちはらアート×ミックス」では、都会で体験できない自然とのふれあいや農作業を体験し、市原へ通いたいと思えるプログラムを用意します。さらに身近にある自然や食材、製品を活用し、新たな名品、名所をアーティストが地域住民と産み出していくことも、地域活性化に向けた取り組みの1つとします。



牛久朝市

東京近郊には、まだ多くの里山が残っています。

市原市もその1つです。

少し足を延ばせば日常生活を離れ豊かな週末を過ごせる場所。

都会のオアシス。

「市原湖畔美術館」や学校、駅がプラットフォームとなり

週末市原へピクニックに訪れた人々が、

散策しながらモノづくりからお勉強まで

肩肘張らずに参加できるワークショップやイベントなど

郊外を総合的に楽しむ手法を「いちほらアート×ミックス」

が示していきます。

晴れたら市原、行こう

「いちはらアート×ミックス」
関係者略歴

北川フラム

1946年生まれ。アートディレクター。「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」(2000、2003、2006、2009、2012) 総合ディレクター、「瀬戸内国際芸術祭」(2010、2013) 総合ディレクター。

色部義昭

1974年生まれ。グラフィックデザイナー。日本デザインセンター色部デザイン研究室主宰。主な仕事に、TAKEO PAPER SHOW 2111「本」の展覧会ディレクションや川村記念美術館のVIとサインのリニューアルプロジェクトなど。

Aigars Bikse

1969年ラトビア生まれ。主な作品に、ピンクハウス(クリスタプス・グルピスとの共同プロジェクト/2005年ヴェネチアビエンナーレ/ジェネレーション・ヨーロッパ館/イタリア)など。

Izhar Gafni+CardboardTechnologies

イスラエル生まれ。"Cardboard Technologies"社設立者兼CTO。機械エンジニアであり、多領域システム開発者でありながら、段ボール自転車をはじめ、自動ザクロ皮むき機、身体障害者のためのロボットなどの発明家としても知られる。昨今は、製造業とのコラボレーションも積極的に行っている。

姜侖秀 (カン・ユンス)

1978年韓国生まれ。6か国から集まった9人のアーティストによる団体「Caketree Theatre Company」(ロンドン) 芸術監督。

岩田草平

1979年生まれ。2008年度より2年間、文化庁新進芸術家海外研修員としてインド留学。NPO法人プロマイノリティ代表。インドの少数民族サントル族とともにさまざまなプロジェクトを実施。

岩間賢

1974年生まれ。場と人との対話を生み、風土や自己を問い直す作品を多数制作。近年は、ユーラシア大陸を舞台とした持続可能なランドアートや、1000坪の棚田に人と自然が共存する生態学的空間を新潟県十日町市にて制作。

大成哲雄

1965年生まれ。「千葉アートネットワークプロジェクトWiCAN 千葉市美術館」(2008)、「松戸アートラインプロジェクト」(2010、2011)など、千葉県内での作品制作活動も多数。

瀧澤潔

1978年生まれ。大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2010「津南のためのインスタレーションーつながりー」など、場所性を活かしたインスタレーション作品を数多く手がける。

とぬま

大沼千明(1985年生まれ)、當間一弘(1977年生まれ)の2人組ユニット。房総を拠点に活動。市原SA上り TABETABI MARKET BOSO FOOD CENTERにて、物販・マルシェの企画(大沼)、設計・企画・運営(當間)に携さわる。

藤本壮介

1971年生まれ。2000年藤本壮介建築設計事務所設立。主な作品に、くまもとアートポリス「次世代モクバン」(熊本県,2008)、武蔵野美術大学図書館(小平市,2010年)。2012年イタリアヴェネチア・ビエンナーレ第13回国際建築展金獅子賞受賞。小湊鐵道飯給駅に「いちほらアート×ミックス」1号となる作品「世界一大きなトイレ」(2012)。

指輪ホテル

1994年設立。代表/羊屋白玉(設立以来、全ての作品の劇作、演出をつとめる) 廃工場やテニスコート、書店、レストラン、ストリップ劇場など、オルタナティブスペースでの空間演出と、国内外を問わず女性パフォーマーのみで構成されるドラマツルギー(演劇論)を通して、社会観や世界観のあり方を提示。

KOSUGE1-16

土谷亨(1977年生まれ)、車田智志乃(1977年生まれ)の2人組アートユニット。2001年活動開始。既存の美術施設に納まることをスタンダードとせずローカル単位で行動をおこし、様々な社会問題を孕みながらもそれをポジティブに読み替えていくプロジェクトを行っている。

NPO市原星空キャラバン隊

天文観察の趣味の集まりから出発し、小学校や公民館からの星空観察会の依頼に応えるため、現在では天文普及活動まで幅広く活動。代表/小島庸三。

ICHIHARA ART x MIX 2014

3.21.Fri. — 5.11.Sun.

<http://www.city.ichihara.chiba.jp/>

広報についてのお問い合わせ

市原市経済部国際芸術祭推進室

tel. 0436-50-1160 fax. 0436-50-1303

kokugei@city.ichihara.chiba.jp